

2018 年度

華服飾專門学校

自己評価・学校関係者評価報告書

2019 年 7 月 12 日

基準項目ごとの学校自己評価及び学校関係者評価・意見

基準1 教育理念・目的・育成人材像

自己評価結果

学園の「建学の精神」に則り、理念・目的は明確に定められ「学則」において明文化されている。また育成人材像、具体的な運営方針、教育方針を別途定めている。育成人材像は、「時代の求める職業人」であり、服飾関連業界等が求める知識・技術、及び社会人基礎力等、教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会の提言を取り入れて定めている。専門知識、技術はもとより社会人基礎力（主にコミュニケーション能力と主体性）を高める為に、アクティブラーニング、オリジナルプランニング等を取り入れ、特色ある教育活動に取り組んでいる。2018年度「単位制」「選択授業制」を導入した。中期3ヶ年経営計画を策定して、教育システムの確立、教員の資質の向上、学生の質の向上、教育環境の充実の4本を柱に活動した。

基準2 学校運営

自己評価結果

理念、育成人材像を踏まえ、教育方針の実行、華ブランドの構築、教育システムの確立を運営方針として校長が定めている。中期3ヶ年経営計画及び前年度の事業計画の実施状況、その反省に基づく改善を行い、重点目標を踏まえ事業計画を立案している。その進捗状況に関しては、定例会で確認をして、推進会議で報告をしている。予算は事業計画に従い稟議書を作成して、経営会議の承認を経て執行している。学校法人における理事会・評議員会は寄附行為に基づき適切に行われ、必要に応じて臨時会議が行われている。学校における運営組織は明確化され、組織として整っている。各部署、各人の業務分担の明確化が重要で、別途各人の業務分担表を作成している。給与に関しては「華学園給与規程」に基づき運用している。意思決定に関しては稟議が行われ、決定の課程は稟議書として記録している。承認がおりた段階で起案者に連絡されるシステムが確立されている。2018年度より志願者から在校生、卒業生に至るまで、一貫して管理できる情報管理システムを運用し業務を効率化した。

基準3 教育活動

自己評価結果

教育理念を基に、関連業界の方で構成される教育課程編成委員会での提言を受けて、教育課程を編成している。また『ADDIEモデル』の評価基準書をもとに2017年度からカリキュラム見直しを行い学則変更、2018年度より「単位制」「選択授業制」を学則変更して導入した。学科・コース毎に評価基準書を策定し、評価基準書に準拠したシラバスに教育到達レベルを明記している。また単元の授業に関しても達成度確認方法を明記している。2018年度後期より授業の進行状況を記載できるようにシラバスのフォーマットを変更した。運営方針、教育方針を教育理念に沿って定め、教育課程を編成している。将来の職種を見据えて学科毎、コース毎に科目の設定やそれぞれの授業コマ数を設定している。関連業界の方で構成される教育課程編成委員会及び学校関係者評価委員会において、意見の聴取や検討を行い、教育課程に反映している。また企業の方との懇談会等も実施して意見を聞き教育課程に反映している。具体的には、専門科目に関しては基礎知識・技術の習得、それ以外で社会人基礎力の習得・向上が重要であるとの多数の意見があり、それを反映した教育課程を編成した。キャリア教育に関しては、就職ガイダンス、一般常識、ビジネスマナー等を実施している。さらに社会人基礎力向上のための科目を強化している。具体的な科目としては、「イベント企画」「オリジナルプランニング」「LIFOプログラム」の3科目でグループディスカッション等のコミュニケーション能力の向上や主体性の育成を目的とした授業内容である。『ADDIEモデル』に関しては①評価基準書作成、②カリキュラム編成、③シラバス作成、④授業評価まで実施。成績評価基準は学則に明記して学生便覧にも明記している。科目毎の評価の詳細はシラバスの評価方法に記載して実施している。取得目標の資格・免許は教育課程上で明確に位置づけられており、関連する授業科目、特別講座の開設等も明確にしている。資格・免許取得のための事前授業や指導体制は整備されており、補習等の不合格者への指導体制も整備されている。教員については専修学校設置基準の資格・要件を満たす教員を確保している。また、授業担当要件については、履歴書（専門性と担当科目も記載）、必要資格の確認及びその写しも管理している。教員の資質向上のため、関連業界と連携して研修を実施しているが、さらに業界で求められる知識、技能習得、教育力・指導力の質向上が必要である。必要なセミナー等への参加を促すと同時に、自己啓発で向上を図るよう指導している。教員の組織体制に関しては分野毎に必要な教員組織の体制を整備し、業務分担・責任体制等は組

織図等で明確に定めている。今後は校長、教育部長、学科長というラインにより種々の事を決定、伝達、実施していく。

基準4 学修成果

自己評価結果

就職希望者に対する就職率は100%である。2018年度より、教員による就職担当者を新たに設け、担任とキャリアセンターのトリプルサポートで学生の就職活動支援を行っている。就職活動の早期化に伴い、就職に対する早期意識付けを目的として、就職ガイダンスの授業を1年次後期より実施している。1年次2月には就職活動の為の研修を実施している。また、就職先として主要企業を10社設定し、企業との連携を図りながら就職活動支援を行っている。就職率は100%だが、必ずしも希望職種への就職は出来ておらず、その実現の為の育成・指導が今後重要と考えている。取得目標の資格はコースにより異なり、各資格・免許の取得率は、合格実績と全国平均とを比較し、取得目標を決定している。合格率を上げる為の特別講座も開設している。縫製技術系の検定は合格率100%であるが、パターン検定が70%を下回った。全員受験のファッションビジネス能力検定、ファッション色彩能力検定は合格率70%前後で、合格率を向上させる対策が今後の課題である。具体的にはパターン検定は2019年度より受験時期が変わるので、1年次の夏休みに特別講座を設け強化する。ファッションビジネス能力検定は、1年次の12月に受験させている。そこで不合格の学生は2年次の前期選択授業を受講させ（希望者）6月の検定試験に再チャレンジさせる。色彩検定対策は外部講師の為相談、検討する。2018年度に過去5年の卒業生の就職先に対して在籍調査を実施した。

基準5 学生支援

自己評価結果

毎週火・木曜日の朝、就職担当・担任・キャリアセンターとで意見交換を行い、求人情報の共有や希望者の有無等の情報共有を行っている。関連業界と連携し校内企業説明会を実施している。また就職指導（就職ガイダンス）の授業を設け、就職活動の流れから、実際の受験対策の指導（グループディスカッション、面接指導等）を行っている。受験先が決定したら、受験先に合わせた受験対策（面接指導等）を行っている。学生の出席状況に関しては毎日の出欠を担任が確認し、教務担当に報告を行う体制である。さらに月単位で学生の動向を報告書にまとめ、欠席や遅刻が目立つ学生は担任が面談を実施し学生個人カルテに記載して、指導経過記録として情報共有して活用している。まずは担任が個人の動向・変化をいち早く察知することが最も重要である。今年度退学者5名（前年度10名）と減少。退学理由としては、進級・卒業不可（学費、出席日数不足）に加え、進路変更が増加した。担任のきめ細やかな個人指導、保護者面談等に努めている。学生相談の対応窓口は担任としている。その内容は担任が指導記録（個人カルテ）に記載して、教員間、キャリアセンター、外部講師とも情報を共有して活用している。就職、学費については専門の担当者を置き、指導記録で情報共有し対応している。学費に関しては学校独自の特待生制度を設けており日本学生支援機構奨学金や各種教育ローンについては担当者が個別に対応している。奨学金制度・教育ローンについては入学案内に記載し入学前から周知している。学費納入に関しては分納制度を設け、個別の事情にも応じている。健康診断に関しては学校保健法に基づき、年1回4月に健康診断を行っている。有所見者については、予防措置、治療指示をしている。また学校医を選任している。遠隔地から就学する学生に対しては、関連企業と提携して寮を確保している。管理面においては、寮に常駐している管理人から定期的な報告を受け、生活指導に活かしている。経済的負担の軽減のための寮利用対象の奨学金制度がある。課外活動に関しては外部のファッションショーへの参加等については学校で把握し、支援を行っている。保護者に対しては保護者就職相談会を開催しており、教育活動の発信や就職相談等を行っている。学力不足や心理面の問題がある場合は、保護者と連携し保護者面談を1年次1月に実施している。緊急時の連絡体制も確保している。社会人への教育環境に関する特別な配慮は行っていないが、社会人入学者にも対応できるカリキュラムを編成しており個別相談に応じている。

基準6 教育環境

自己評価結果

設置基準、法令の基準に準じ、且つ教育上必要な設備を完備している。図書室においては、専門書の他にファッション誌の購入も行っている。学生の憩いの場として学生ラウンジを設けている。重点目標として、設備の充実を図っている。今年度は卓上ミシン用のミシン台を購入し作業効率向上を図った。来年度も順次推進する。企業の現場見学（縫製工場、プリント工場等）・

展覧会見学等、『実践教育の推進』を教育方針にも掲げ実行した。学生も興味を持って参加した。インターンシップに関しては受入れ先企業の指導者と事前に打ち合わせを行い、教育効果を高める実施体制の構築を図っている。インターンシップ先の企業には学生の評価を依頼し、評価を教育活動に反映している。ただし、現在インターンシップは正規の授業として教育課程上の位置づけはされていないので単位を与えられるよう単位制の導入を検討する。防災に関しては学園事務局を中心に防災体制を構築し、マニュアル化している。年1回防火防災避難訓練を実施している。毎年新生生には防災グッズを配布し、飲料水、食料等の防災用品の備蓄を行っている。全ての校舎の耐震化を行い緊急地震速報の設置をして法令に基づき、消防設備の点検、特定建築物検査を実施して指摘事項は改善を行っている。安全管理では、不審者対策として、受付での入退館チェックを行っている。夜間は人的、機械警備の両方を導入し、学校財産の保全に努めている。授業中の事故や怪我については、対応マニュアルを策定し対応している。

基準7 学生の募集と受入れ

自己評価結果

高等学校の進学説明会に適宜に参加したり、入学者用パンフレットと募集要項を作成し、情報提供を行っている。また模擬授業も高校に出向き行っている。東京都専修学校各種学校協会の自主規制を遵守し、募集を行っている。志願者には専用窓口（入学相談室）を設け、適切に対応している。華の強みを在校生、卒業生へのアンケートで把握して、パンフレット、ホームページで『華が選ばれる7つの理由』としてアピールしている。入学選考基準、方法は規程で明確に定めており、募集要項に明記している。可否判定は入学選考委員会において、適切、公平に実施されている。学科毎の募集状況、合格率、辞退状況、出願者の成績等を考慮し授業方法の改善を図っている。具体的には基礎学力の劣っている学生が多くみられるため、入学後基礎学力試験を行いそれを把握して、一般常識の授業で対応している。学納金の算定にあたっては消費税の変化、社会状況に鑑み、算定を行い、最終的に理事会の承認を経て決定している。在学中の学納金については全て募集要項に明記し、追加徴収がないよう心がけている。また教材費は別途徴収している（募集要項に明記）。入学辞退者への返還金については、文部科学省の趣旨に基づいて募集要項に明示し、適切に取り扱っている。

基準8 財務

自己評価結果

応募者数・入学者数及び定員充足率の推移を把握し、収支の均衡を保つため、学費改訂や設備投資を含め継続的に経営改善に取り組んでいる。顧問の公認会計士の指導を受けて各種資料を作成し、その内容や数値に関する情報およびその推移について把握することを十分に心がけている。単年度予算および中期計画を策定している。予算計画については、事業計画に基づく策定スケジュールに課題があり、検討が必要である。予算編成および予算執行全般について、さまざまな改善を実施したことで無駄な支出を防ぎ、経費節減を図っている。公認会計士による、日常および決算書類作成の会計指導が行われ、監事による会計監査を行っている。決算後には公認会計士から報告書が提出され指摘事項等について改善を図っている。私立学校法における財務情報公開の基準に沿って希望者への閲覧体制を整えている。

基準9 法令等の遵守

自己評価結果

学校教育法のもと、専門学校教育に関する各種法令、専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。法令に基づく個人情報の取り扱いは適切に行っているが、規程整備にまで及んでいない。学生、卒業生データを電子化し保存しているので古いPCのリプレース、ウイルスソフトの完備等を行い一定の保護策を講じている。日常業務での個人情報取り扱いについては、個人責任に負うところが多い。今後は学生システムの確立により実施する。自己評価について規程を定め実施している。学校点検委員会を設置して、その内容を精査して、学校関係者評価委員会に諮り、評価結果については、改善に取り組んでいる。自己評価の結果は文部科学省のガイドラインに則り、ホームページで公開している。学校関係者評価委員の選任に関しては、学校評価ガイドラインに基づき、必要な委員を選任している。評価結果については、経営層に報告し、改善に努めている。評価結果を取りまとめ、ホームページにて周知している。職業実践専門課程の規程に基づきホームページにて積極的な情報公開に努めている。

基準10 社会貢献・地域貢献

自己評価結果

学校の教育資源を活かした社会貢献は、教育活動に支障のない範囲で行っている。また高等学校が行うキャリア教育への支援は、見学会の受け入れ、出張講義等を積極的に行っている。国際交流については、現状、留学生の受け入れにとどまっている。教育のグローバル化が進む中で、専門学校としてどのように関わっていくかが課題である。また、11月に希望者を募り、海外研修を行い、イタリアのアパレル工場、プリント工場での研修を行った。例年、2月の鶯華祭（卒業作品展）においてチャリティーイベントを実施し募金活動を行っている。また、学校周辺及び最寄り駅付近の清掃を年間通して実施している。

学校関係者評価委員からの主なご意見・対応等

<学生募集について>

- 【意見】 選択制について、就職とリンクしていれば良いが選択させることが逃げ道になってしまわないか？
2年間しかないので、技術を定着させるにはある程度の縛りがあると思う。
- 【対応】 後期より選択科目を減らし、コースに沿ったカリキュラムを検討中。
- 【意見】 今回のパンフレットは個性にインパクトがない。優しい雰囲気だが、薄まった感じである。高校生は憧れから入るので、卒業生が有名などところに行きがちである、数ある服飾の専門学校の中から華を選んでもらうには、楽しい部分をどう見せるかが大事。
- 【対応】 パンフレットの完成が遅くなってしまった。年間を通して、授業風景やイベントの楽しい雰囲気の写真をとり、後期より来年度のパンフレット作成に着手する。
- 【意見】 成果を対外的に示していくことが必要。また、就職率や卒業生情報などが増えていくと良い。
- 【対応】 活躍している卒業生を把握しパンフレットやホームページで紹介していく。
- 【意見】 最近の学生はコミュニケーションの取り方が下手である。そこで、華の「少人数のメリット」を最大のウリとしてクローズアップしてはどうか？「少人数」だからこそ人間関係の築き方が良くできる。
- 【対応】 セミナー、イベント企画等で学生の隔たりなくコミュニケーションが取れることをアピールする。
- 【意見】 華は他校と比べて何がウリなのかを今まで以上に明確にする。なければ作り出す。計画する。
- 【対応】 テクノロジー教育の活用として iPad 導入をうまく伝えていく。
- 【意見】 ファッションの学校であるのに HP 等の感度（オシャレ度）が低い。まずは知ってもらう段階で感度が低いと比較対象にすらならないので募集ツールの改善が必要。
- 【対応】 今年度より、SNS の見直し改善を実施中。毎日更新し内容も楽しさをアピールするものにしていく。また、フォロワー数を増やす為に、オープンキャンパスや見学会等で積極的にアピールしていく。
- 【意見】 母校訪問は難しいと思うが卒業校へのメッセージなら作品と文章で伝えることはできると思う。
- 【対応】 入学後の写真を撮影して広報より高校へ知らせているので、定期的に報告できるよう検討していく。
- 【意見】 作品展（2月鶯華祭）ではディスプレイにも力を入れる。展示の作品数がすくなかった。
- 【対応】 今までは展示数を制限していたので、今後は増やしていく。

<教育活動 学生の質の向上 技術力の向上について>

- 【意見】 作品展を行うことは良い。審査員に関しては、外部講師も身内である。社会で仕事をしている人を呼んで行ったほうが、学生も緊張感が持てるので良い。
- 【対応】 活躍している卒業生や学校関係者、教育課程の委員の方へ依頼できないか検討していく。
- 【意見】 知識の確認方法として、2年生が1年生に教えると知識の定着にもなる。
- 【対応】 イベント企画やファッションショー衣裳製作を1、2年合同で行う。
- 【意見】 技術力をアップするには製作した枚数、アイテム数に比例するので作品数をできるだけ増やす。
- 【対応】 昨年度より作品点数を増やすカリキュラムを作成中
- 【意見】 技術力が上がっても話が出来なければ成立しない。技術と社会人基礎力はフィフティフィフティの割合が良い。技術を増やす際はコミュニケーションが図れる教育の仕方を取り入れて欲しい。
- 【対応】 作品審査会によって、コミュニケーション力やプレゼン力の向上にも努める。

<教育活動 学生の質の向上 プレゼン力の向上・IT 関連教育の推進について>

- 【意見】 タブレット導入でプレゼン力、科目間の連携は取れていくと期待するが、画面ばかりをみでの授業でコミュニケーション力の表現が不足しないように活用できると良い。
- 【対応】 個別に使用する時もあるが、グループワークのまとめツールとして活用したい。

<学生支援について>

- 【意見】 就職につながるアルバイトの紹介をもっと積極的に行ってはどうか？
- 【対応】 現在もアパレルでのアルバイトを推奨しているので、引き続き力を入れていく。

<留学生について>

- 【意見】 留学生に関して、入学の理由・卒業後の目標を十分に話してからコース選びや選択科目のとり方をアドバイスしてほしい。
- 【対応】 今年度より入学面談時に時間をかけて聞いていく。